

Title	Factor analysis on oral health care for acute hospitalized patients in Japan
Author(s)	蔵本, 千夏
Journal	歯科学報, 112(2): 210-211
URL	http://hdl.handle.net/10130/2794
Right	

氏名(本籍)	蔵本千夏 (千葉県)
学位の種類	博士(歯学)
学位記番号	第1849号(乙第733号)
学位授与の日付	平成21年12月9日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
学位論文題目	Factor analysis on oral health care for acute hospitalized patients in Japan
掲載雑誌名	Geriatrics & Gerontology International 第11巻 4号 460~466頁 2011年5月
論文審査委員	(主査) 山根 源之教授 (副査) 櫻井 薫教授 柴原 孝彦教授 石井 拓男教授 松久保 隆教授

論文内容の要旨

1. 研究目的

肺炎は脳血管障害後に起こりやすく、また、誤嚥性肺炎予防に口腔ケアが有用であるという報告が相次いでなされている。そのため、いわゆる急性期入院患者に対する病院の口腔ケアに関する対応は重要なものとなってくる。これまで歯科領域から全国規模で病院の病棟における口腔ケアについての調査を行った例はない。65歳以上の脳卒中急性期入院患者に対する口腔ケアの実施調査の結果を基に、模範的な口腔ケアを行っている病院の分析を行うためにこの研究を行った。

2. 研究方法

平成13年10月、厚生科学研究・長寿科学総合研究事業の一環として、病院要覧(2001~2002年版)に掲載されている病院(精神病院、小児科、産婦人科を除く)8,089施設に対し、質問紙を用い調査を行った。調査項目は①回答施設の状況②歯科医療との連携③口腔ケアに対する意識④看護職員への歯科衛生教育⑤65歳以上の脳卒中急性期入院患者に対する口腔ケア実施状況、以上5項目25設問とした。その回答を基に、模範的な口腔ケアを実施している病院の因子について分析を行い、ステップワイズ法によるロジスティック回帰分析を行った。

3. 研究成績および考察

2,444施設(30.0%)より回答が得られた。回答した病院のうち91.8%が日常看護業務の一貫として口腔ケアを実施していた。口腔ケアに期待される効果として91.2%が「呼吸器疾患の予防」と回答しており、看護の世界では「口腔ケア=肺炎予防」という考えが定着していることが明らかとなった。看護職員へ歯科衛生教育を実施している病院は30%に満たない一方で、歯科衛生教育が必要とする病院は約90%もあり、必要なことは理解しているが実施できないという現状が明らかとなった。

口腔ケアの開始が入院直後で1日3回以上ケアを行っているいわゆる模範的な病院は、口腔ケアの必要性を感じていること、入院病床数が多いこと、看護職員への歯科衛生教育を実施していることと強い関連性を示した。

4. 結論

規模の大きな病院のほうが小さい病院よりも、口腔ケアに関心を持つ傾向を認めた。急性期病院では、口腔ケアを実施することは、既に一般化していると考えられた。看護職員への歯科衛生教育の実施と、歯科医療従

事者からの情報提供の不足が明らかとなった。主な口腔ケア担当者である看護師に対して、歯科医師や歯科衛生士による情報発信が必要であると考えられた。

論文審査の要旨

高齢社会を迎え、誤嚥性肺炎の予防は今後ますます重要な課題となってくる。そのため、入院患者への口腔ケアが浸透することは、大きな意味を持つ。しかし、従来病棟での口腔ケアはほぼ看護師の領域と考えられており、歯科からの介入はほとんどなく、実際にどのような方法で、いかなる頻度で実施されているのか、その実態は歯科関係者には不明であった。本研究は全国全ての病院に対し、急性期入院患者に対する病棟での口腔ケアに関するアンケート調査を行い、その結果を元に、回答病院の特徴、口腔ケアの実態、また模範的口腔ケアを実施している病院に関連する要因を分析したものである。過去に、同様の調査はない。

回答した病院は、病床数の多い、診療科名数の多い傾向があった。回答した病院の9割以上は、口腔ケアの必要性を感じており、また口腔ケアを日常看護業務として実施していた。有歯顎者に対しては歯ブラシを用いたケアを行っている病院は9割以上にも上った。口腔ケアの担当者は看護師が最も多く、歯科医師や歯科衛生士はほとんど実施していなかった。看護職員への歯科衛生教育の必要性は9割以上の病院が認めているにもかかわらず、教育の実施は3割程度であった。入院直後から口腔ケアを開始し1日3回以上行っている病院に関連する要因は、口腔ケアの必要性を感じていること、入院病床数が多いこと、歯科衛生教育を実施していることであった。

本審査委員会は1) 研究目的と調査対象、2) 質問紙の内容、3) 統計処理の方法、4) oral health careと口腔ケアの定義についての質疑が行われ、概ね妥当な解答が得られた。研究テーマの絞り込みについても討論を行い、さらに論文題名についても検討を加えた。

以上より本研究で得られた結果は、今後の歯学の進歩、発展に寄与するところ大であり、学位授与に値するものと判定した。